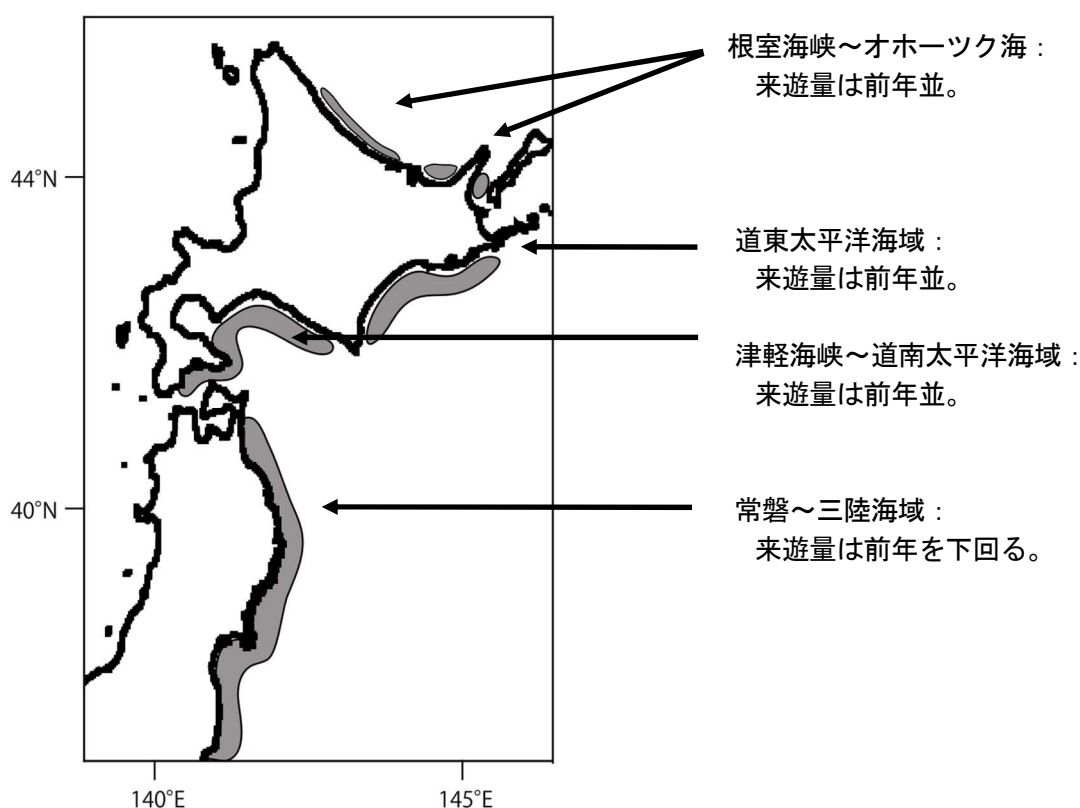


平成30年度 第2回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成30年11月)のポイント

スルメイカの来遊量は、道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海域、津軽海峡～道南太平洋海域では前年並であるが、常磐～三陸海域では前年を下回る。
海域別の予報については以下の通り。



問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、藤井
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

国立研究開発法人水産研究・教育機構
<http://abchan.fra.go.jp/>

平成30年度 第2回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

今後の見通し（2018年11月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海、津軽海峡～道南太平洋海域、常磐～三陸海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2018年級群）

1. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：漁場は散発的となり、11月で終了となる。

2. 根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網、底びき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：明瞭な主漁期が無いまま終了する。

3. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

4. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

I 予報の説明

第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報の公表後の漁況の経過等を主要な情報として、11月におけるスルメイカの来遊量を予測すると、道東太平洋、根室海峡～オホーツク海域、津軽海峡～道南太平洋では前年並、常磐～三陸海域では前年を下回ると予測される。各海域における見通しは以下の通りである。

1. 道東太平洋

この海域に来遊する漁獲対象資源は、沖合域を北上する群と考えられる。2018年8月～9月に実施した太平洋第2次漁場一斉調査と道東太平洋スルメイカ資源調査*の結果によるCPUE(いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数)は前年を上回ったものの、前年に引き続き低い水準で、有漁調査点は全10点中6点であり(前年は全10点で有漁)、CPUEの高い点は襟裳岬東側海域に限定されていた(図1)。

前年8月～10月中旬における小型イカ釣り漁船による漁獲は10月中旬に花咲港でのみあった。本年8月は厚岸港でのみわずかに漁獲があり、9月上旬～10月中旬は厚岸港、釧路港、花咲港で漁獲があった(10月上旬は水揚無し)。10月上旬～中旬における道東太平洋主要港における漁獲量は前年並(前年0.8トン、本年1.0トン)に低い水準であった。これらのことから、9月の道東太平洋への来遊量は前年を上回ったと考えられるが、10月上旬～中旬は前年並であったと考えられる。

水産研究・教育機構の海況予測システム(FRA-ROMS**)によると、11月における道東沿岸の水温は、前年並～低くなると予測され、群の南下時期は早い可能性がある(図2)。

10月上旬～中旬の道東太平洋への来遊量は前年並であり、11月の道東太平洋への来遊量は前年並と予測される。また漁場は散発的となり、11月で終了となると予測される。

*北海道立総合研究機構釧路水産試験場が独自に実施。

**国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム

2. 根室海峡～オホーツク海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。10月上旬～中旬に羅臼港に水揚された小型イカ釣り漁船による漁況は、前年よりも操業隻数が少なく、漁獲量は前年を下回った(前年11.9トン、本年6.6トン)。以上のことから、10月上旬～中旬の根室海峡～オホーツク海域への来遊量は前年並であり、少なかった。また前述の通り、10月上旬～中旬の道東海域への来遊量は前年並であり、11月の道東太平洋への来遊量は前年並と予測される。以上のことから、11月の根室海峡～オホーツク海域への来遊量は前年並と予測される。前年並に来遊量が少ないことから、前年同様に明瞭な主漁期は無いまま終了となると予測される。

3. 津軽海峡～道南太平洋

この海域の漁獲対象資源は、津軽海峡～道南太平洋海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられる。

10月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。大畑港における漁獲量は、前年を下回ったが(前年10.1トン、本年5.0トン)、CPUEは前年並となった(前年0.07トン/隻/日、本年0.07トン/隻/日)。函館港における漁獲量は、前年を下回り(前年26.5トン、本年8.7トン)、CPUEも前年を下回っ

た(前年 0.11 トン/隻/日、本年 0.05 トン/隻/日)。浦河港における漁獲量は、前年並で(前年 42.3 トン、本年 37.6 トン)、CPUE は前年を下回った(前年 0.29 トン/隻/日、本年 0.20 トン/隻/日)。大畑港、函館港、浦河港の全体で見ると、漁獲量は前年を下回ったが(前年 78.9 トン、本年 51.2 トン)、CPUE は前年並となった(前年 0.15 トン/隻/日、本年 0.12 トン/隻/日)。

以上のことより、10 月上旬～中旬における当海域への来遊量は前年並と考えられる。また前述の通り、10 月上旬～中旬の道東海域への来遊量は前年並と考えられ、11 月の道東太平洋への来遊量は前年並に低い水準であると予測されることから、当海域(津軽海峡～道南太平洋)へ来遊する南下群が前年並に少ない可能性がある。以上のことから、11 月の津軽海峡～道南太平洋への来遊量は前年並と予測される。

4. 常磐～三陸海域

この海域の漁獲対象資源は、常磐～三陸海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられる。常磐～三陸海域における太平洋第 2 次漁場一斉調査の CPUE (いか釣り機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数) は前年を下回った。

10 月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。青森県の白糠港、泊港、三沢港、八戸港における合計漁獲量は、前年を下回り(前年 58.9 トン、本年 14.3 トン)、CPUE は前年並だった(前年 0.12 トン/隻/日、本年 0.11 トン/隻/日)。岩手県主要 7 港における漁獲量は、前年を下回り(前年 103.9 トン、本年 20.8 トン)、CPUE も前年を下回った(前年 0.21 トン/隻/日、本年 0.08 トン/隻/日)。宮城県(石巻・気仙沼・女川・志津川)の小型いか釣り漁船による漁獲量は、前年を下回り(前年 7.7 トン、本年 1.1 トン)、CPUE も前年を下回った(前年 0.10 トン/隻/日、本年 0.02 トン/隻/日)。青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年を下回り(前年 170.5 トン、本年 36.2 トン)、CPUE も前年を下回った(前年 0.16 トン/隻/日、本年 0.08 トン/隻/日)。

以上のことより、10 月上旬～中旬における当海域への来遊量は前年を下回ったと考えられる。さらに、前述の通り、10 月上旬～中旬の道東海域への来遊量は前年並と考えられ、11 月の道東太平洋への来遊量は前年並に低い水準であると予測されることから、道東太平洋から本海域へ来遊する南下群が前年並に少ない可能性がある。以上のことから、11 月の常磐～三陸周辺海域への来遊量は前年を下回ると予測される。

Ⅱ 各海域の漁況経過（8月～10月中旬）

2018年8月～10月中旬の宮城県以北の太平洋沿岸主要港での水揚げ量（生鮮：速報値、一部未集計）は1425.5トンで、前年（2546.3トン）を下回った。

1. 道東太平洋

道東4港（十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港）における2018年8月～10月中旬の合計水揚げ量は64.6トンで、前年（0.8トン）を上回った。旬別の漁況の経過を図3-1に示す。

2. 根室海峡～オホーツク海域

羅臼港における2018年8月～10月中旬の合計水揚げ量は7.9トンで、前年（14.2トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図3-2に示す。

3. 津軽海峡～道南太平洋

大畑港、函館港、浦河港における2018年8月～10月中旬の合計水揚げ量は453.2トンで、前年（461.5トン）並であった。旬別の漁況の経過を図3-3に示す。

4. 常磐～三陸海域

青森県（白糠港、泊港、三沢港、八戸港）、岩手県（主要7港）、宮城県（気仙沼港、石巻港、女川港、志津川港）における2018年8月～10月中旬の合計水揚げ量は899.8トンで、前年（2069.8トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図3-4に示す。

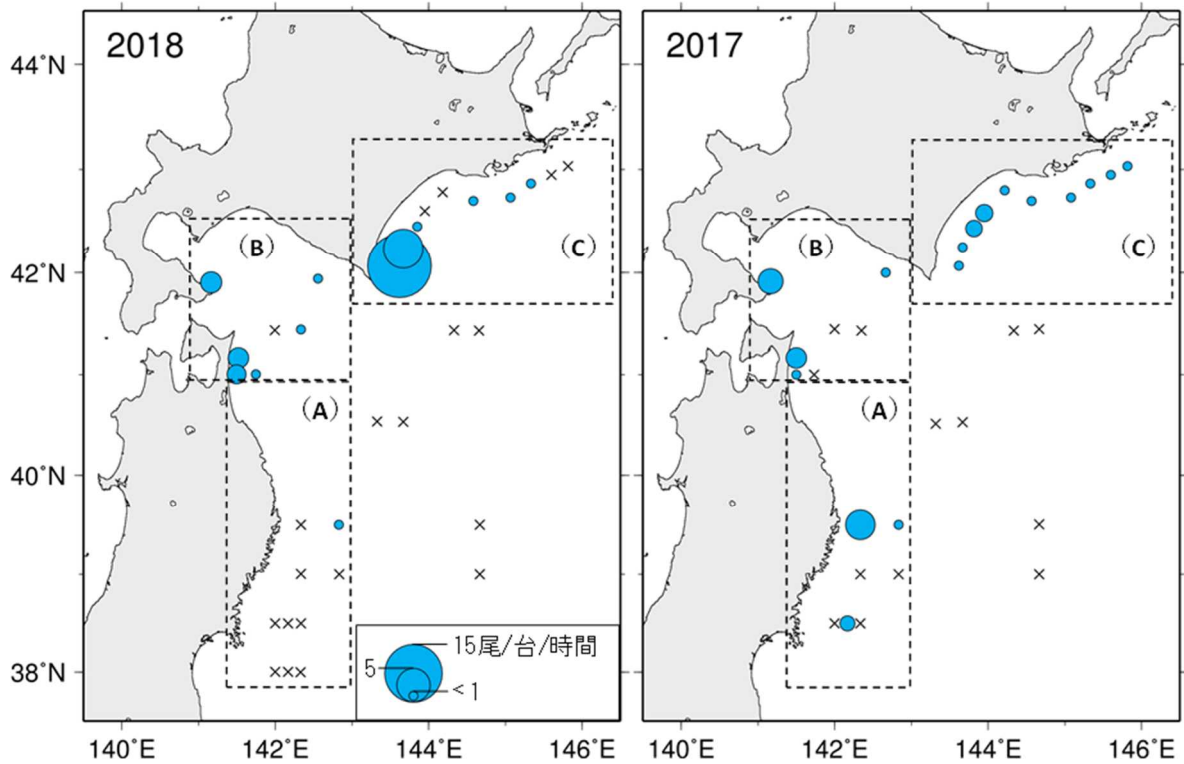
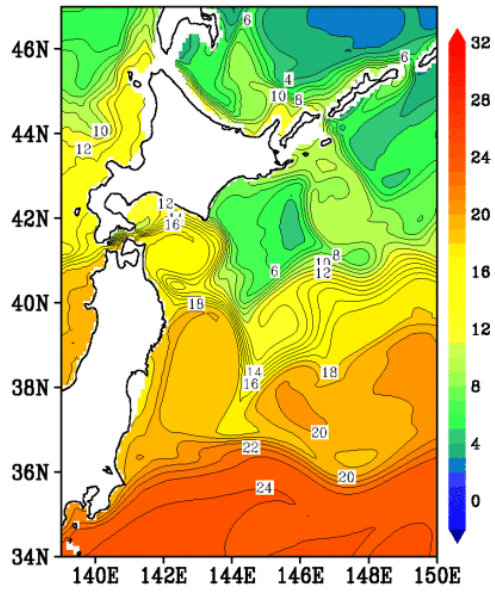


図1. 太平洋第2次漁場一斉調査および道東太平洋スルメイカ資源調査の結果
 2018年8月～9月（左図）、2017年8月～9月（右図）のいか釣りによるスルメイカの
 CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布を左図右下の凡例にしたがって
 示す（×は漁獲なし）。破線で囲まれた海域は（A）常磐～三陸周辺海域、（B）津
 軽海峡～道南太平洋海域、（C）道東太平洋海域および根室海峡～オホーツク海域
 における来遊量予測の根拠となった調査海域を示す

（平成30年度 第2回 太平洋スルメイカ長期漁況予報より抜粋）

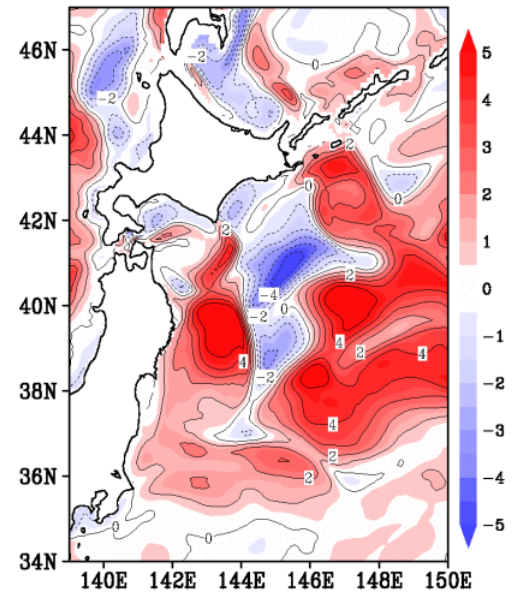
FRA-ROMS

2018/11-early Temperature[°C] (50m)



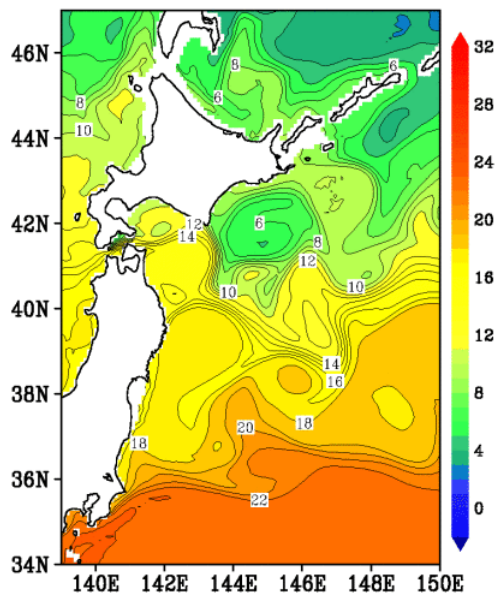
FRA-ROMS

2018/11-early Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)



FRA-ROMS

2018/11-late Temperature[°C] (50m)



FRA-ROMS

2018/11-late Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)

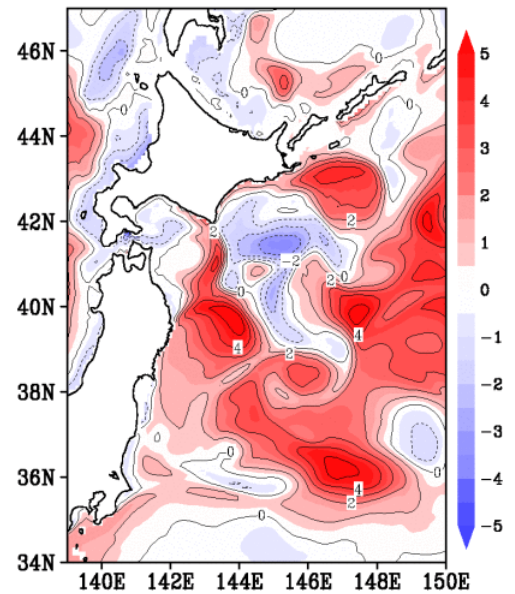
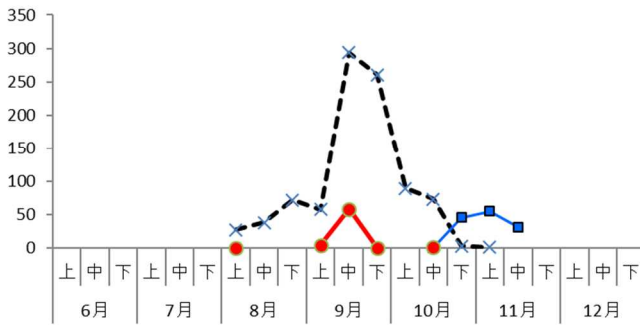


図2. 海況予測システムFRA-ROMSによる2018年11月上旬（上段図）と下旬（下段図）の50m深予測水温（左図）および平年差（右図）注：50m深はスルメイカの代表的な分布深度

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

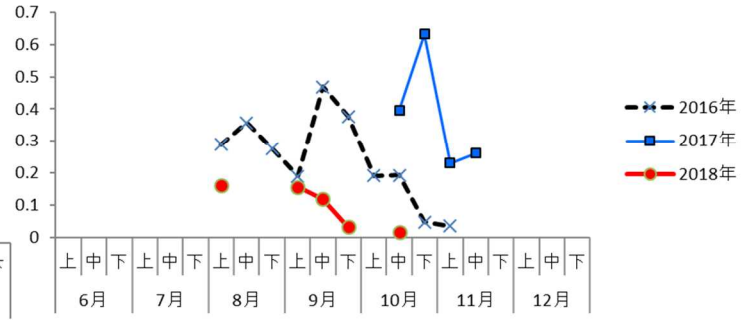
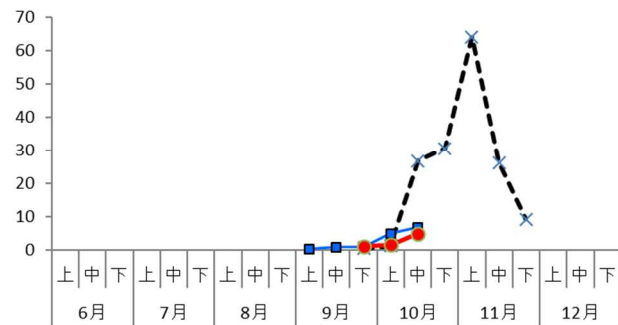


図3-1. 道東太平洋の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

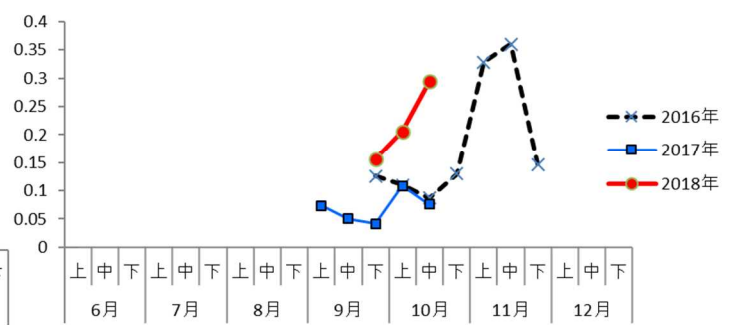
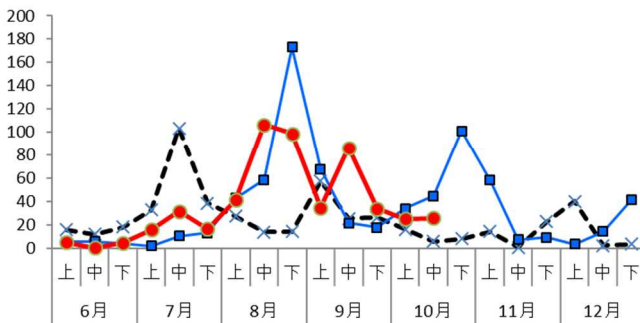


図3-2. 根室海峡～オホーツク海域の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

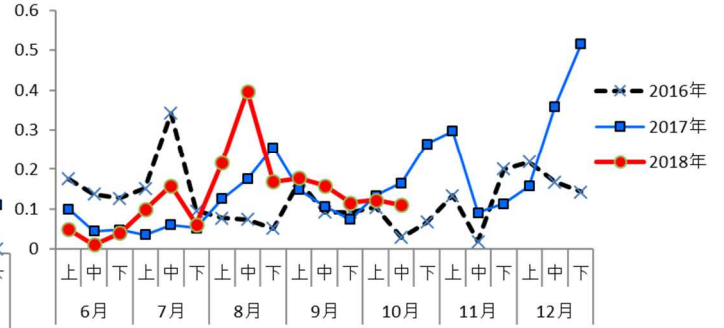
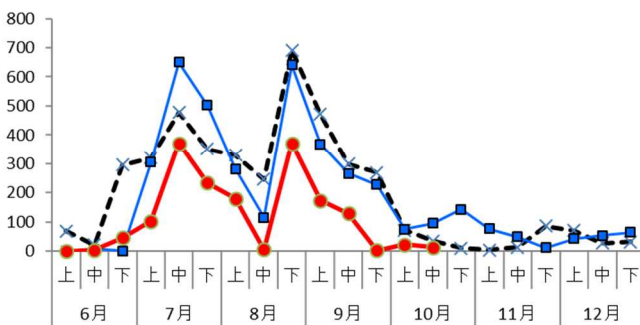


図3-3. 津軽海峡～道南太平洋の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

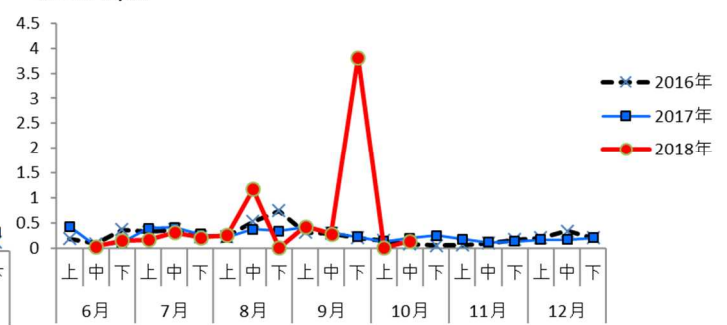


図3-4. 常磐～三陸海域の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所 東北区水産研究所 日本海区水産研究所
福島県水産資源研究所	(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター
茨城県水産試験場	
千葉県水産総合研究センター	
神奈川県水産技術センター	
静岡県水産技術研究所	